

たった三日間の出会いでつかんだアメリカ留学りゅうがくの夢を、あきらめるわけにはいきません。どこまでもやりぬく会津人のねばりがあります。英世の忍耐にんたは、ここでも発揮はつきされます。連日れんじつ、フレクスナー教授のところところに押しかけて、頼みました。年もせまった大みそかの日の午後、フレクスナー教授は、英世を自分の部屋に呼びました。

「野口君、きみは、毒蛇どくじゃについて研究したことがありますか。」

突然の質問に、英世はためらいましたが、ここで知らないと答えたら、何もかもおしまいになってしまうと考えた英世は、

「ハブのことなら知っています。」

と、答えました。

「そうですか、それはよかったです。毒蛇の研究を手伝ってください。」
フレクスナー教授は、ついに英世を個人的な助手として、やとうことにしま